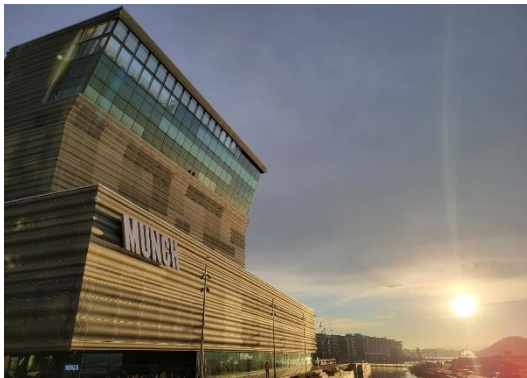


# ノルウェーの暮らしと 修士留学の紹介

オスロ大学修士課程  
特別支援教育専攻  
河村晏奈

埼玉親善大使レポート④ 2021年11・12月分

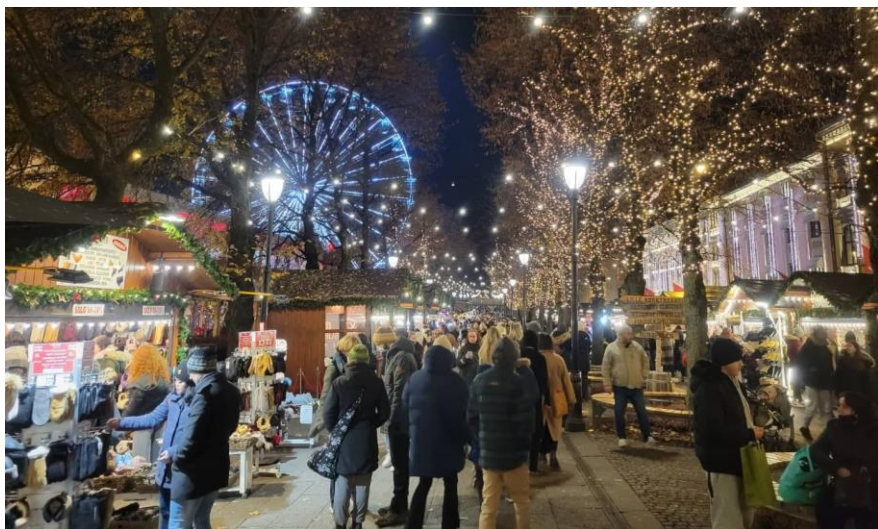
寒くて暗く、憂鬱になりがちなノルウェーの冬ですが、クリスマスマーケットをはじめクリスマス色に染まるすてきな時期でもあります。ノルウェーのクリスマスの過ごし方や伝統料理、「叫び」で有名なノルウェー出身ムンクの美術館、近所にあるすてきな公共図書館について紹介します。



ムンクといえば「叫び」を想像されると思います。実はあの画の人は叫んでいるのではなく、幻聴に耳を塞ぐ本人の不安や怯えを表しているのだそうです。今までオスロの別の地区にあったムンク美術館は、街の中心に新しく建て直され、10月にリニューアルオープンしました。12階のガラス張りテラスからは、オスロの名物オペラハウスや埋立地の高級住宅街が見えます。



オスロの一番大きな図書館は海沿いの新しく広い図書館なのですが、最寄りの図書館 Deichman Grünerløkka は大きすぎず、雰囲気ですてきです。ガイドブックにも載っています。会員カードを持っていれば、朝7時から夜11時まで好きなときに勉強できます。英語訳された日本の漫画の数には驚かされます。「Manga」はノルウェーでも若者に人気です。二階は子どもや若者のスペースになっています。



11 月に入ると街はイルミネーションで装飾され、クリスマスマーケットも開催され始めました。オスロのメインのクリスマスマーケットでは、ホットワインの Gløgg、ソーセージ、お菓子、手工芸品などたくさんのお店があり、すごく賑わっていました。スケートリンクやメリーゴーランドなどもあって、子どもも大人も楽しんでいました。



10 月頃からすでに、スーパーでクリスマスの飲み物 (Julebrus) が売り出されたり、クリスマスのギフトボックスやアドベントカレンダーがお店に並んだりしていました。アドベントカレンダーは 12 月 1 日から始めて 24 個の「窓」を毎日 1 つずつ開けていくカレンダー。窓を開けると写真やイラスト、詩や物語の一編、お菓子が入っているものなど様々な種類があり、手作りする人も多いそうです。

その時期はどこでも God jul! (メリークリスマス!) と見たり聞いたりします。お店で物を買っても、友達との別れ際にも、いつも God jul! です。電車の表示にもありました。



クリスマスの伝統料理は Ribbe(ローストした豚の肋骨)や Pinnekjøtt(ラム肉の塩漬け)、Kalkun(七面鳥)Torsk(タラ)など、何を食べるかは地方や家庭によって違うようです。



クリスマスツリーは本物の木を買う人が多いです。この時期のみ現れるツリー屋さんには、モミの木がたくさん。みんな真剣に木を選んでいきます。

